

1 研究主題

(令和4年・5年度 2か年継続研究 1年次)

主体的・協働的に学び、よりよい社会を創り出す力を育む小中学校教育の推進
～「令和の日本型学校教育」の構築を図る校長の在り方～

2 研究推進の概要

- (1) 第70回留萌管内小中学校校長会教育研究協議会の開催
 - * 研究の趣旨説明 (研究部長)
 - * 研究発表
「令和の日本型学校教育」の構築に向けた学校組織マネジメントの推進を図る校長の在り方 (研究部)
 - * 研究協議
実践レポートによるグループ交流・協議
＜視点1＞校長のリーダーシップ (ビジョンの提示の仕方や語り方)
＜視点2＞校長のマネジメント (分かりやすい計画と指示)
 - * 講評・助言 北海道教育庁留萌教育局義務教育指導監
- (2) 道小研・道中研・全国研への参加環流
- (3) 全連小・道中提言プロジェクト委員会の推進
 - * 令和5年度第74回全国連合小学校長会研究協議会東京大会 (第7分科会)
 - * 令和5年度第64回北海道中学校長会研究大会小樽大会 (第1分科会)
- (4) 研究集録「和心一統」第53号の発刊
- (5) 留萌管内教育研究団体連絡協議会の業務推進
- (6) 新任校長研修会

3 研究の成果 (○) と課題 (●)

- 先行きが不透明な時代 (VUCA) においては、校長が率先して教職員に呼びかけ (校長の人間性も重要)、全教職員が当事者意識をもって学校の進むべき道をデザインしていく (グランドデザインの策定) という発想が重要であることが明らかとなった。
- 「リーダーシップ (ビジョンの提示の仕方や語り方)」は“未来”を見据えた視点、「マネジメント (分かりやすい計画と指示)」は“今”を見据えた視点であるが、校長はそれぞれの違いをしっかりと理解した上で、必要に応じてこれらを使い分けたり、状況によって補完したりすることが重要であることを共通理解できた。
- 校長によるリーダーシップのもと、心理的安全性を確保し、教職員の多様性に配慮したマネジメントを実現していくためには、「対話 (コミュニケーション)」が大切であること、そしてこの対話こそが教職員一人一人が経営ビジョンや課題解決方策のねらいを理解していく上で欠かせないことが確認された。
- 校長の経営ビジョンの浸透具合はしっかりとした成果が見えにくい側面もある。教職員の自己評価や人事評価シートを踏まえた面談及び北海道教職員育成指標等を視野に入れながら、教職員の姿を通して、その状況を把握していく必要がある。
- ワークショップ等を通じた教職員との意見交流の重要性は認識できたが、その方向付けは難しいことから、校長自身がビジョンを明確にしておくことが必要である。

1 研究主題

(令和4年・5年度 2か年継続研究 2年次)

主体的・協働的に学び、よりよい社会を創り出す力を育む小中学校教育の推進
～「令和の日本型学校教育」の構築を図る校長の在り方～

2 研究主題設定の趣旨

留萌管内小中学校長会は、「和心一統」を指標とし、留萌管内の子どもたちが自律的に生き生きと成長するために、よりよい学校経営を目指して研究と実践を積み重ねてきた。

その推進に当たっては、教育の「不易」と「流行」を見極めながら、様々な教育改革や子どもを取り巻く社会の課題に対して、時代に応じた学校経営の在り方について共通認識し、課題の解決を目指して組織的・継続的・実践的に取り組むことで校長の指導性を高めてきた。

前次研究では、研究主題「新しい時代を創造し、豊かに生きるための確かな力を育む小中学校教育の推進」、研究副主題「社会に開かれた教育課程の実現を図る校長の在り方」とし、学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」を実現するため、「①育成を目指す資質・能力の明確化とその実現を目指す学校の創意工夫・活性化」、「②学校教育の改善・充実を図るカリキュラム・マネジメントの推進・実現」、「③主体的・対話的で深い学びの実現」の3テーマ及び具体的な視点に基づいた学校経営の充実を図る方策や校長としての役割と指導性に関する研究を推進した。

今次研究では、前研究の成果と課題、及び学習指導要領の着実な実施に向けた取組を引き継ぎながら、「令和の日本型学校教育」の構築に向けた方向性や2020年代を通して実現していくこれからの学校の在り方を探究し、学校経営における質の向上を図る具体的方策、新たな時代における校長の役割や組織マネジメント能力に繋がる研究推進に努めていきたいと考え、研究主題を「主体的・協働的に学び、よりよい社会を創り出す力を育む小中学校教育の推進」、研究副主題を「『令和の日本型学校教育』の構築を図る校長の在り方」とした。

3 研究内容（研究の視点）

- (1) 「令和の日本型学校教育」の構築に向けた学校組織マネジメントの推進
- (2) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体化した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- (3) 「学校経営」や「教育課程」、「指導・育成」、「危機管理」、「教育課題」の5つの領域

4 研究推進計画

- (1) 研究の期間 令和4・5年度 2か年継続研究
- (2) 第71回留萌管内小中学校長会教育研究協議会の開催
 - ・期日 令和5年8月1日(火)
 - ・会場 小平町文化交流センター
- (3) 令和5年度第74回全国連合小学校長会研究協議会東京大会提言プロジェクト委員会の推進
令和5年度第64回北海道中学校長会研究大会小樽大会提言プロジェクト委員会の推進
令和6年度第75回全日本中学校長会研究協議会岩手(盛岡)大会提言プロジェクト委員会の発足
- (4) 道小研・道中研・全国研への参加環流
- (5) 研究集録「和心一統」第54号の発刊

5 研究組織

- (1) 市町村校長会の研究組織を母体とした共同研究を基本とする。
- (2) 管内研究部と各市町村研究部との連携を図り、研究内容の質的な向上に努める。
- (3) 留萌管内教育研究団体連絡協議会の業務(研究大会日程の調整等)を推進する。
- (4) 第71回留萌管内小中学校長会教育研究協議会の助言を留萌教育局に依頼する。

6 その他

※研究資料は冊子化を図り日常業務に有効活用する。